

第 56 回全国学生剣道優勝大会実施における 新型コロナウイルス感染防止対策基本方針

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、令和 5 年 5 月 8 日から季節性インフルエンザと同じ「5 類感染症」となりました。

この引き下げに伴い、第 56 回全国学生剣道優勝大会では昨年まで実施してきた新型コロナウイルス感染防止対策内容を大幅に緩和致します。但し、引き続き関係者の健康や感染拡大を防止するため、以下の感染防止対策を講じさせていただきます。

大会実施要項の内容と共に、本基本方針をご理解の上、遵守いただきますようお願い申し上げます。また、本基本方針を遵守頂けない場合、他の参加者の安全を確保する等の観点から、当該大会への参加取り消しや途中退場を求めることがありますのでご注意ください。

なお、今後の感染状況や新型コロナウイルスの位置付けなどを含む社会情勢の予測が困難であることから、本基本方針は、今後の感染状況や様々な情報を元に逐次内容の見直しを図る可能性があります。出場する選手の皆さんにおかれましては、本基本方針の内容がさらに厳しくなる、あるいは、より緩和される可能性があるという点にご理解いただき、大会出場の準備(稽古)をして頂くよう、お願い致します。

1. 昨年からの主な変更点

- ① 選手、役員、来場者など、全関係者のマスク着用は任意とし、個人の判断に委ねる。
- ② 出場選手の大会前の PCR 検査・抗原検査の実施並びに同検査結果及び事前健康管理の報告を不要とする。ただし、各団体及び各個人にて適切な健康管理をすること。
- ③ 来場者の事前登録は行わず、入場及び観覧をフリーとする。
- ④ 濃厚接触者の概念が撤廃されたため、従来の濃厚接触者定義に該当する者への出場制限は特に設けない。自身の体調や状況を鑑みて各団体及び各個人で出場可否を判断する。
- ⑤ 入館時や試合前後でのアルコール消毒は任意とする。
- ⑥ 発生を伴う応援を可とする。また、その際のマスク着用は任意とする。
- ⑦ 連戦インターバルを 2 分から 1 分へ戻す。
- ⑧ 審判の電子ホイッスルを笛へ戻す。

2. 引き続き参加者が遵守すべき事項

- ① 参加者は以下の事項に該当する場合、自主的に参加を見合わせる。
 - 1) 新型コロナ陽性者となった場合。
 - 2) 体調がよくない場合。(発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ② 感染防止のために当該大会実行委員会が決めたその他の措置を遵守し、その指示に従う。

3. 感染者、感染疑いのある者の競技会参加の可否 について

大会への参加予定者（出場選手、チーム関係者、役員など）に感染者が出た場合、当該感染者や所属チームへの対応は以下の通りとする。

① 感染者への対応

大会開催日 5 日前の時点、もしくはそれ以降に PCR 検査で陽性反応があった場合、当該選手は参加を辞退する。または、実行委員会による出場権利の取り消しを行う。

但し、次の 1) 及び 2) の場合は、大会への出場を認める。

- 1) 有症状の場合は、症状が出た日から 5 日以上かつ症状軽快後 24 時間以上経過している。
- 2) 無症状の場合、PCR 検査の検体採取日から 5 日以上経過（または採取日から 5 日目に検査キットで陰性を確認した場合は 5 日間経過）している。

② 感染疑いの者への対応

大会開催日 5 日前の時点、もしくはそれ以降に感染疑い症状が発症していた場合、原則当該感染疑い者は参加を辞退する。

但し、症状が出た日から 5 日以上かつ症状軽快後 24 時間以上経過している場合は、大会への出場を認める。

※ 感染疑い症状とは

- ▼息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合。
- ▼重症化しやすい方（高齢者、糖尿病・心不全・呼吸器疾患 COPD 等の基礎疾患がある方、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
- ▼上記以外の方で「発熱や咳など比較的軽い風邪の症状」が続く場合

3. 具体的な感染対策に係る対応について

① 入館時の対応

- ・特筆すべき対応は行わない。

② 会場内での対応

- ・出場選手、来賓、観客、審判員、大会運営スタッフは、競技中や競技待機時含めてマスクの着用を各個人の判断のもと任意とする。
- ・開会式及び閉会式はコロナ前の形式に戻し、通常通り執り行う。
- ・各コートの結果は、競技終了後すみやかに会場内にアナウンスを行う他、大会ホームページにてリアルタイムで結果の更新を行う。会場での掲示も行う。
- ・1 階競技場へ入場は、役員、審判の他、実施している競技種目に出場する選手（団体実戦競技監督も含む）のみとし、それ以外の者は入場禁止とする。
- ・観客が発声を伴う応援を可能とする。また、その際のマスクの着用は任意とする。

- ・ 観客席では昨年に引き続き各大学着席エリアを設定する。
 - ・ 会場内は、施設側の換気設備を稼働させるほか、主道場への出入口扉を全て開放し、常時十分な換気を行うようにする。
- ④ 競技前後の対応
- ・ 試合前後の選手の手指の消毒は任意とする。
 - ・ コートの消毒は行わない。
- ⑤ 競技中の対応
- ・ 選手のマスク着用は任意とする。
 - ・ マスクを着用する選手は、競技中にマスクのズレや外れなどが生じないように十分な事前確認や工夫を行う。
 - ・ 万が一、競技中にマスクずれが生じた場合は、自身で必ず直すこと。なお、マスク直しが軽微であれば減点対象とはしないが、頻度や所作によっては、減点の対象とするため、基本はズレない工夫を行うこと。
 - ・ 万が一、個人法形競技中にマスク外れが生じた場合は、競技に支障がなければ演武を継続する。競技に支障がある場合は、その時点で構えたまま停止し、役員が予備マスク等を装着してくれるまで演武中断すること。
 - ・ 演武や試合中の気合は通常通り発声して良いものとする。
 - ・ 実戦の競技時間は、個人・団体共に 1.5 分とする。
 - ・ 連戦インターバルはコロナ前の 1 分に戻す。但し、3 連戦の場合等は状況に応じてインターバルを延長する。
 - ・ 法形、実戦の対戦後にはコロナ前のように握手を行う。
 - ・ 赤帯は布製の赤帯を運営より貸与し、共用可とする。(都度の消毒は実施しない。)
- ⑥ 審判の対応
- ・ 電子ホイッスルではなく笛を使用する。
 - ・ 法形時、判定の旗は共用可とする。(都度の消毒は実施しない。)
- ⑦ 来場者規制の対応
- ・ 来場者数の制限及び事前登録は行わない。
 - ・ 基礎疾患有無や年齢制限、ワクチン接種有無等による来場者規制は行わない。
- ⑧ その他の対応
- ・ 大会開催中に体調不良の有症者が発生した場合は、選手や観客如何によらず、速やかに帰宅するものとする。